



1 決勝戦後、激励に訪れた読売巨人軍原監督。ジャイアンツカップを手渡し、優勝したナインの栄光をたたえて今後の期待を語った。

1つの栄光と3つの挑戦



第5回全日本中学野球選手権大会 ジャイアンツカップ優勝

中学硬式野球1447チームの頂点を決める大会で、見事全国優勝を成し遂げた金田中の最強トリオ。この夏、赤い旋風を巻き起こし、全国の強敵をなぎ倒して栄冠に輝いた、3人の軌跡をたどる。

悲願の全国制覇達成

中学硬式野球主要7リーグの頂点を決める、国内唯一の大会へ全日本中学野球選手権大会ジャイアンツカップ。決勝進出チームだけに許された東京ドームの舞台上、金田中3年の福田蒼也くん、高濱祐仁くん、福島孝輔くんが、所属する飯塚ライジングスターボーイズの一員として出場した。

「決勝戦では、負けることなく考えていませんでした」と話す3人は、頂上決戦でも動じない強いハートで、最高の結果を残した。エースで4番の福田くんが持ち前の粘り強い投球と抜群のコントロールで要所を締め、7回を1失点に抑えると、大会屈指のスラッガーとして注目を浴びた3番遊撃手の高濱くんが、6回に左中間へダメ押しとなる2点タイム

リーを放つて、勝利をたぐり寄せた。チームで攻守の要だった福島くんは、2番捕手での出場。頭腦的な配球で凡打の山を築いて福田くんをリードし、バットでもタイムリーを放つなど見せ場を作った。3人の活躍が勝利を牽引し、5-1で快勝した飯塚ライジングスターボーイズ。見事1447チームの頂点に立ち、九州勢初となる全国制覇を成し遂げた。

運命の試合が3人を導く

「2人と一緒に、より高いレベルで野球がしたかった」と話したのは、3年前、野球のために佐賀県から転入した高濱くん。小6の時にプロ野球ジュニアアトリーナメントのホークスジュニアで、福田くん、福島くんと一緒にプレーしたことがきっかけとなり、引越越しを決

絆を支えるそれぞれの道

「何よりみんな野球が好き。素質があるだけでなく、練習以外で人知れずトレーニングを積んでいることが分かる。将来が楽しみ」と春山監督は笑みを浮かべる。3人も監督の期待どおり将来の夢を抱いていた。「プロで活躍し、両親に恩返しをしたい」と福田くん。高濱くんは「千葉ロッテで活躍する兄と同じ舞台に立つて一緒にプレーしたい」と目を細める。福島くんは「甲子園で2人をライバルとして対戦し、いい試合をして勝ちたい」と胸を張った。

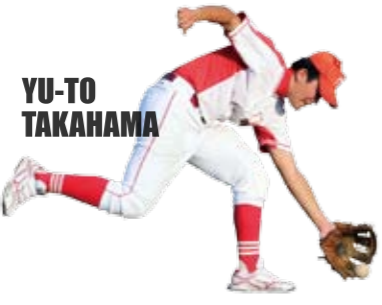
めた。このことは、当時、どこに入部するか迷っていた福田くんと福島くんにも転機をもたらした。将来の展望を真剣に考え、技術の向上を熱望。結果、3人でノックの神様として有名な春山総星監督率いる飯塚ライジングスターボーイズへの入部を決断した。春山監督は「福田は大黒柱、制球力と粘り強い投球が魅力。高濱は長打力、入部当初から群を抜いていた。福島は強肩、ピッチャーとしての素質も打撃センスも抜群」と3人を評価する。

「これまでと同じ目標に向かって努力を重ねてきた。しかし、来春からは違う場所での目標に挑むことをそれぞれが選択した。道は違っても、これまで培った絆と、今年の夏、があるかぎり、互いの存在を忘れることはないだろう。そのつながりは今後の彼らをさらに飛躍させ、幾多の壁を乗り越える支えとなるに違いない。」

野球の強豪校や雑誌、マスコミなど、全国的に注目を集める3人。全国の頂点に立った金田中のトリオは、逸材としての期待とプレッシャーを力に変える選手たちだ。そう遠くない未来、一流の選手になった3人がテレビの中で活躍する日がくることを信じている。



◀ **福田 蒼也** エース・4番
右投げ左打ち。練習日以外も1時間、約10kmの走り込みを欠かさない。MAX120km台の速球と緩急の差をつけた七色の変化球で打者を手玉にする。好きな言葉は「感謝」。



▶ **高濱 祐仁** 遊撃手・3番
右投げ右打ち。練習日以外もトスバッティングと素振り100本をこなす。身長181cm。通算20本塁打以上を記録し、1年生からレギュラーの長距離打者。好きな言葉は「努力」。



▶ **福島 孝輔** 捕手・5番
右投げ左打ち。試合前には対戦相手のビデオを見て戦術を練り、勝つための努力を欠かさない。ピッチャーではMAX128km、打率も4割5分を誇る。好きな言葉は「有言実行」。

飯塚ライジングスターボーイズ
▶ **春山 総星** 監督
メジャーリーグ球団からコーチとしてスカウトがくるほどのノックの達人。「3人には無限の可能性がある。きっと素晴らしい選手に育ってくれる」と、期待を込めてエールを送った。



福島孝輔



高濱祐仁



福田蒼也